

The TENDAI journal

令和6(2024)年3月1日 金曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 小林 祖承
〒520-0113 大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp



広報天台

北陸教区

福井と金沢で四十九日追悼法要



檀信徒が物故者を悼み焼香する 光照寺(福井市)

四十九日追悼法要は、福井市と金沢市のそれぞれの寺院で午前11時から奉修。光照寺では、光照宗務所長を導師に南越部と北越部の住職や法嗣らが出仕。道入寺では宗議会議員であり、甚大な被害を受けた珠洲市・翠雲寺の岩尾照尚住職が導師を務め加能越部の寺院住職らの出仕で営まれた。

檀信徒らも参列して犠牲者の冥福を祈り焼香した。法要後、光照宗務所長は「亡くなった方々と遺族の無念を想いながら勤めさせていただいた。僧侶として今できる支援を続けていきたい」と話している。

両会場では募金箱が設置され、この日集まった義援金は一隅を照らす運動総本部に寄託される。

天台宗からは被災地に支援の義援金

北陸教区(光照良浩宗務所長)は2月18日、「能登半島地震物故者四十九日追悼法要」を福井市の光照寺(白崎良演住職)と金沢市の道入寺(白崎良瑩住職)でそれぞれ奉修した。両会場では、檀信徒や一般からも参列があり、犠牲者の冥福と被災地の早期復興が祈られた。また全国の天台宗寺院にも、回向を営んでもらうよう事前に呼びかけた。



道入寺は、金沢市での支援拠点寺院となっている

教区災害対策本部長の光照宗務所長は「本格的なボランティア活動が展開されていない現時点では、万人のために役立てるよう小回りの利いた援助を考えている」と話す。

令和6年能登半島地震災害に対し緊急救援募金を行っている一隅を照らす運動総本部地球救援事務局に、2月9日までに4070万5750円の善意が寄せられた。そのうち4000万円を2月16日、義援金として石川県をはじめとする被災した各自治体や日本赤十字社に寄託した。

寄託先は、石川県≡3000万円、新潟県≡600万円、富山県≡300万円、福井県≡100万円。石川県と新潟県は県に、富山県は日本赤十字社富山県支部と富山県共同募金会、福井県は日本赤十字社を通じて送金された。

また、地震発生直後より医療と保健衛生面を中心に被災地で緊急人道支援活動が続けている特定非営利活動法人AMDAに、緊急救援引当金より支援金300万円を送った。

なお、2月26日までに44万81518円の募金が寄せられている。天台宗では3月25日まで義援金を受け付ける。(詳細は7面)

被災4県に 4000万円

北陸教区ではメールリングリストで被災地の現状や対策本部の活動を発信している。登録は、天台宗北陸教区災害対策本部 hokurikutendai-noto101@gmail.com

極微

政治に対する不信感はこれまでになく増大しているようだ。特にお金を巡る疑惑は国民の大きな怒りを買っている。不信感は「もはやここに至れり」の感である。今あまり聞かないが「井戸堀政治家」という言葉があった。政治活動に私財をつぎ込んでしまい、屋敷に残ったのは井戸と堀だけという政治家を指す。郷土のため国のためを思い、私利私欲を離れ政治に取り組む姿勢が共感を呼ぶのだろう。かつて井戸堀政治家として取り上げられた政治家の名前が、金にからむ腐敗政治に関する記事にはよく引用される。▼現代の政治家はいわばサラリーマン化した職業政治家であるが故に私財をつぎ込むようなことはしない、というか、できないであろう。できることといえば、むしろ、いかに自由に使えるお金を集められるかということのようだ。集めたお金は無論真っ当な政治活動に使われるのが筋だが、私的に流用されることも多々あるだろう。▼初心を忘れることなれというが「人々のため国民のため」という意識はどこへ行ったのか、と思わされるような政治家が増えた。これも政治家という存在が職業化したせいなのだろうか。▼「私財を投げうつつ井戸堀政治家になれ」とまではいわないが、政治家に望むことはただひとつ「国民のため」という意識だけは失ってほしくない」といついかなる。